

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3372400261		
法人名	株式会社 邑久幸ホーム		
事業所名	グループホーム 邑久幸ホーム		
所在地	岡山県瀬戸内市邑久町尾張94-1		
自己評価作成日	平成29年 7月 15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372400261-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372400261-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年8月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営理念である「入居者が主人公」を目指して、入居者の方が意志や感情をありのままに表現できる安心感のある雰囲気作りと笑顔で接することを心がけています。</li> <li>・入居者の方が、その人らしく持てる力を発揮しながら、生活していただけるように寄り添う介護を行っています。</li> <li>・ホームの中においても、季節の移り変わりを感じることができるように、菜園で季節の野菜や花を育てています。また、オーナーや入居者のご家族からも新鮮な野菜や季節の花を届けていただきますので、日々の生活の中で食事に提供したり、花を飾ったりしています。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>利用者の楽しみである食事を大事にする為、市の管理栄養士に献立を考えてもらうことにした。夏場はスパイスを駆使した食欲増進メニュー、冬場は体を温めるメニューを考え、作り方も細かく指導してくれる。利用者の感想を伝え、それを参考にしながら次の献立を立ててくれる。管理栄養士は月1回、食材と器具を自ら持ち込み、利用者と一緒に菓子作りをしている。例えば利用者がとても喜んだというよもぎ餅は、喉に詰まらないよう白玉粉を使い、よもぎは摘みたてを持参してくれた。今年の夏祭りも、利用者と一緒に菓子作りするイベントも盛り込んでいる。地域との交流を図る為、町内会に加入し清掃除に参加する予定である。開かれた事業所にしたいという思いは、一歩ずつ前進している。地域に「邑久幸ホーム」があるから安心と言ってもらえる施設になるのを楽しみにしている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営会議、スタッフミーティングを活用して全スタッフにホームの運営理念や地域密着型サービスについてのあり方を共有しています。	「一人ひとりの生活を大事にしていこう」と基本方針を掲げている。それは決められたスケジュールに合わせて行動するのではなく、自宅で自由に過ごしていた時と同様に生活して欲しいとの考えからである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のボランティアの方や、中高生の夏のボランティア活動を積極的に受け入れ交流を図っています。また近所のスーパーなどへ入居者の方と一緒に買い物に行き地域の人々と交流をもつようにしています。	町内との交流を図る為、町内会に加入する事にした。町内会長に挨拶に行き、加入を希望したところ、事業内容を知りたいと見学に来てくれた。今後は地区の清掃にも参加し、さらに交流を深めたいと考えている。	地域との交流を深める為、清掃にも参加する予定。少しでも地域に協力し、交流を図ることに期待を寄せる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の認知症の相談、介護保険に関する質問等を随時受けています。また、地元の老人クラブの集まりにも参加させてもらい、口腔体操や脱水予防の呼びかけなどを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催をして運営推進会議委員の皆さんにホームの活動や、入居状況等を知っていただき、委員の皆さんから質問、要望、助言を話してもらいホームのサービス向上に活かしています。	写真を配布しながら、活動報告をし利用者の様子を知ってもらっている。また事業所がこれから取り組もうとしている事も伝えている。先日も「町内と交流を図りたい」と議題にあげ、「町内会に加入することからまず始めないと」等アドバイスをもらっている。	運営推進会議に、町内会長や他のグループホームの職員等に参加してもらい、色々な意見交換が出来る場になることに期待を寄せる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険関係での質問には、いつも真摯な対応をしてくれていますので連携が取り易く、運営推進会議も参加していただき、協力関係がうまく築けています。	市の担当者に顔を覚えてもらいたいと考え、質問は電話でなく直接会いに出掛けている。地域との協力関係の「橋」を多方面に増やす為、様々なボランティアを紹介してもらいにも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で拘束については身体拘束ゼロを常に念頭に置き、迅速に代替策を講じ対応しています。	利用者が「今したい」と思う気持ちに寄り添って支援をしている。「今すぐ帰りたい」と言われれば、「一人じゃ心配なので一緒について行かせて下さい」等、帰りたい気持ちに寄り添う事で、利用者は気持ちを受け入れてもらえたと安心されることが多い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修などから、高齢者虐待の知識を身に付け、入居者の方への関わりや、声かけの仕方をしっかり学んでもらい、入居者の方の尊厳、人権、自由が保障される介護を行ないます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修等で学ぶ機会には積極的に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約等に関しては、担当者がご本人、ご家族と面談し書面と口頭で説明しています。また法改正等があれば、ご家族に書面にて説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方には、日常の生活等を月に1回手紙を送り、また来訪時には、スタッフから積極的に話し掛けを行い、相談等しやすい雰囲気作りをしています。	家族は身内を預けているので、申し訳ないとの気持ちが深く、なかなか意見を言われにくい。面会時には、「要望があった方がやりがいになるので是非言って下さい」と伝えていると、近頃は色々と言ってもらえる関係が出来つつある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回管理者による会議を開催し、その都度聞いていけるような体制や関係性を作ることが重要になってくるため、可能な限りで会話する機会を多く設けられるよう努めています。	職員間の人間関係は良好で、何でも言いやすい関係作りが出来ている。以前は意見が出しにくい雰囲気だったが、現在は社長から運営面は任せられ、利用者が一番近い職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの資格取得に向けた支援として、資格取得の費用も会社が負担する制度を設け、資格が給料に反映する仕組みになっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しいスタッフには新人研修を行い、既存のスタッフには、その人その人にあった内容の研修を事業所内外で行っています。研修内容は、スタッフミーティング等で発表してもらうようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加することで、同業者や他職種の人と交流する機会があり、その時の意見交換等を日頃の業務の参考にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に事前面接を行い、ご本人の現状や気持ちに耳を傾け、信頼関係を築けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がご本人に対してどのような思いを抱いているのか、どんなことで不安になり困っているかなど、入居前に要望等を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接でご本人と話をし現状や思いを聞き、必要としている支援を検討するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において出来ることや得意なことは、ご本人にも一緒に行ってもらえるように声かけをしています。またスタッフも共に笑ったり楽しみながら一緒に生活しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は何時でも自由に来訪していただき、自室やリビングでゆっくり話していただく中で、ご家族の希望していることやご本人が望まれていること等を尋ねています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブやご家族との外出などの機会に馴染みの場所(行きつけの美容院など)や人との関係が途切れないように努めています。	家族の面会が多い。遠方でなかなか訪問出来ないが、毎週日曜日の朝電話をかけてくれる家族もいる。家族も協力的で、正月、孫が遊びに来る、すき焼きを食べる日、墓参り等、利用者と共に過ごしてくれる。行事のチラシを貼り、参加も呼びかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し座席を決めています。また入居者同士の関係が円滑に保たれるようスタッフが調整役となり入居者同士が上手く関わり合えるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や病院へ移られた際に混乱することのないように必要な情報提供等を行い、入居者本意の支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中でご本人の希望や意向を汲み取るようにしています。また難しい場合には、ご家族と相談してご本人にとって最善の方法や関わりができるようにしています。	日中、規定人員より1名多い人員を配置しているため、利用者に寄り添う時間が多い。出来る限り隣に座って、手を触る等のスキンシップを図りながら利用者の思いを聞いている。その日その日の気分で利用者のしたい事も変わるが、表情等から見極めて対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活を聞いたり、また日々の関わりの中でさらに具体的な情報を得るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや日常の過ごし方、その日その時の心身の状態に配慮して、ご本人の思いに沿った暮らしができるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態に変化があった時など必要時には、カンファレンスを開き課題とケアのあり方についてを話し合っています。ご家族とは面会時に相談したり、希望を聞いて介護計画に反映するようにしています。	モニタリングは3ヶ月毎に実施し、毎週行われる会議の際に話し合いをしている。家族に説明する時、目標を見て「こんな事が出来ているんですね」「こんなことしてくれているんですね」と喜ばれる事が多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記入してスタッフ間で情報が共有できるように申し送りをしています。週1回のミーティングと必要時にはカンファレンスを行いケアの見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の暮らしの中でリハビリを兼ねたレクリエーションや運動会など様々な活動を行ったり、買い物やドライブに出かけるなど一人ひとりのニーズに柔軟に対応できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方の高齢化が進み地域資源の活動が減少している中で近隣の店舗等に行っています。運営推進会議には、民生委員や老人クラブ、行政に出席してもらい情報交換等を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の方それぞれのかかりつけ医による診察を受けています。また協力医療機関など複数の医療機関とも関係を密に連携をしています。	在宅時から関わっているかかりつけ医で継続支援をしてもらっている。どの先生も往診に来てくれるし、不調の時も連絡すれば的確な指示がもらえるので医療面では安心である。歯科も以前からのかかりつけ医に通院している利用者が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきで身体に変化がある時は、協力医療機関の看護師に状況を伝達しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ必要な情報提供を行い、入院中の入居者の方には、面会に行き病院での生活や治療などの情報を得ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の方には、入居前に重要事項説明書にて説明を行います。できるだけホームでの生活が継続してもらえるよう主治医と相談しながら支援しています。	入居時に、ここの事業所では医療行為が出来ない為、看取りは難しいと伝えている。重度化した時は、家族と話し合いの場を設けている。もし事業所での看取りを希望した場合は、家族の協力がなければ難しい旨も伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、ミーティングでは、急変時や事故発生時の対応についてを繰り返し話し合いを行っています。また緊急時に適切な対応ができるようマニュアルを作成しユニットに配置しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署に協力をしてもらい避難訓練や消火訓練を行っています。また入居者の方にも参加してもらうことで、より実践的な避難訓練を行っています。	二階の歩けない利用者を避難させる事が出来るかどうかを試そうと、従業員を利用者に見立て布団にくるんで降ろしたこともある。火災時、近隣に住む従業員に直ぐ連絡できる様、連絡網に載せている。	町内会長を通じて消防団員との連携を図りたいと考えている。実現に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが援助を行う際は、常に入居者の方の気持ちになった関わりができるようにミーティング等を利用してスタッフの意識統一を図っています。	利用者が主人公と考えている。職員の手伝いをしてもらうのではなく、利用者の手伝いをさせてもらっているとの気持ちで、言葉かけをしている。備品を居室に持ち込む利用者にも、好きなようにしてもらい、後でこっそり対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物等に付き添う時など、ただ付き添うだけでなく必要な物が購入できるようアドバイスをしています。またスーパーでは自分で欲しい物が選べるよう店内の案内をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出等の希望が入居者の方からあれば、出来る限り、すぐに対応しています。ホームの中でも入居者の方がしたい事は、なるべく尊重して対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容できない方にはスタッフが援助をしています。また定期的に理容、美容の業者の方に訪問してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化に伴い意思表示が難しい方もおられるので、なるべく日常の会話や食事摂取状況などからご本人の嗜好等を把握して入居者の方に楽しく食事をしていただけるよう努めています。	利用者の栄養を考え、管理栄養士に毎月の献立を決めてもらっている。好評だったり不評だったりするメニューを伝え、次の参考にしてもらっている。管理栄養士は、自宅から器具を持ち込み、おやつも利用者と一緒に手作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個々で把握しています。食事の摂取や水分の摂取が少ない方には、本人の嗜好に合わせた食事を摂取してもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方へは声かけ、見守りをしています。また援助が必要な方へは、スタッフがお手伝いさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護日誌等により、各人の排泄リズムを把握しながら、本人の状況・状態に応じたトイレ誘導を行っています。	なるべく自分の意思でトイレへ行き、排泄してもらいたいと考えているので、無理にトイレ誘導はしない。しかし失敗して落ち込む利用者には、こちらから誘導をしている。出来るだけ誘導時も羞恥心に配慮し、扉の外で見守るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を介護日誌等、記録に残していません。また繊維質の野菜、芋類を食卓に提供したり、便秘予防の体操をして便秘の予防を行っています。また便秘がひどい場合は、主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の方の好きな時間に入浴できるよう、入浴の時間帯は決めていません。また、意思表示の難しい方、入浴が嫌いな方には、清潔が保てるよう個々にそった支援を行っています。	大まかな時間を決めて、利用者の入りたい時間に入浴してもらっている。「今日も入りたい」と言われれば、入浴してもらっている。歌を一緒に謳う等、楽しい時間を過ごせるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の関わりを大切にして、日中に外気浴や散歩をしたりして気持ちよく眠れるような支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書の一覧表を個々のファイルや服薬ケースに保存して入居者の方の薬についての理解を深めています。また、薬の変更等があった場合は、連絡ノートにてスタッフに知らせるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りなどに誘ってスタッフと一緒にしています。また、季節を感じる作業(干し柿作り、切り干し大根作り)など日常の会話を通じて思い出していただきながら行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩、買物は希望に沿って出かけています。また意思表示が出来にくい方や歩行が困難な方も声かけて無理のない外出にお誘いしています。	日中は職員の数を増やし、出来る限り散歩に行ける体制にしているため、利用者が「散歩に行きたい」と言われれば、対応に努めている。「家族と外出する際に履くよそ行き用の靴が欲しい」と遠方の店を指定された時も一緒に買いに出掛けた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方の金銭は金銭管理の同意を得てホームでお預かりしていますが、外出の際の買物では、ご本人にお金をお渡しして安心して買物が出来るよう配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望のある時は、プライバシーが守れるよう電話の子機をお渡しして、自室でかけていただいています。またダイヤルが出来ない方にはスタッフが援助しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が快適に過ごせるよう温度、湿度には特に注意しています。また入居者の方の歩行の妨げになる物や危険な物はなるべく共有の空間には置かないようにしています。花等を飾りホールにいても季節を感じることのできる空間を提供しています。	職員は利用者に季節を感じて欲しいのと、日々の成長を楽しんでもらう為、野菜を植えて収穫と一緒に楽しんでいる。花好きな利用者のために、出来るだけ花も植えるようにしている。夜桜が見たいと言われる利用者のために、庭に在る桜をライトアップする工夫をした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを置き、仲の良い入居者同士がくつろげるスペースを設けてあります。玄関にも椅子を配置しており、天気の良い日には、入居者同士でひなたぼっこを楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が安心できる環境が作れるよう、自宅で使っていた椅子や寝具等、思い出の品を入居時に持ってきていただいています。	エアコンの設定温度だけを見るのではなく、西日等で暑く感じる事もあるので、職員は実際に居室に入り体感温度の確認をし、カーテンを閉めたり、エアコンの温度の調節をしたりするようにしている。花好きな利用者の部屋から見える位置には花を植えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を掲げ、トイレはわかり易いよう入口に大きく“トイレ”と表示しています。また安全への配慮から壁への張り紙等は画鋲等の使用を止めて危険のない物を使用しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372400261		
法人名	株式会社 邑久幸ホーム		
事業所名	グループホーム 邑久幸ホーム		
所在地	岡山県瀬戸内市邑久町尾張94-1		
自己評価作成日	平成29年7月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;IigoysoCd=3372400261-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;IigoysoCd=3372400261-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22本町ビル3F		
訪問調査日	平成29年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者が主人公」の立場にたち、誇りを持ち、安心して暮らしていただけるお手伝いができるよう、お一人おひとりに寄り添い、触れ合いを大切にそのひとりの充実感とゆったりとした日常生活を送っていただけるようこころざしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念をフロアー、スタッフルームに掲示している。又、実践につながるよう職員会議を活用し、共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元ボランティアの方との継続的な関わりや新規ボランティアの開拓、地域行事への参加が出来るよう情報収集にも努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議へ参加し、事例などを通して認知症の方への理解や支援の方法を話している。地域の方々の認知症の相談、介護保険に関する質問等について随時受け付けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催をしてホームでの取り組み、活動報告、入居状況等を報告し、質問、要望、助言をいただいています。ご意見は次課題とし取り組めるよう検討している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者に運営推進会議に参加していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行われていないが、全ての職員が正しく具体的な行為を理解できているかの点において今後も繰り返しの研修が必要と思われる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは入居者の方への関わりや声掛けの仕方を職員会議で話し合い、入居者の方の尊厳、人権、自由が保障される介護について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加、研修報告により職員への認識共有に努めたいが、今年度は研修への参加が出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約に関しては、担当者がご本人、ご家族と面談し、書面と口頭で説明している。また法改正等があれば、ご家族に書面にて説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の相談員が2カ月ごとに来訪し、入居者との対話を通じ感じた事などを伝えて下さる。また、ご家族が面会に来られた時にはスタッフから積極的に話し掛けを行い相談しやすい雰囲気作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の申し送り、職員会議にて職員の意見を傾聴し反映しようとしている。代表者は管理者と必要時、及び月2回の管理者会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの資格取得に向けた支援を行い、資格が給料に反映する仕組みになっている。随時、勤務条件等についての相談を受け付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順次、実務者研修へ参加する機会を設けているが、その人その人にあつた内容の研修に参加する機会が増えることが望ましい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬戸内市で開催されるケアカフェへの参加を継続しながら、ネットワークづくりや意見交換による勉強ができるよう取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人にお会いし、現状やお気持ちをお聞きする機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がご本人に対してどのような思いを抱いているのか、どんなことで不安になり困っているかなど、入居前に要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との話し合いを通じて、今一番必要と思われる支援を優先するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が主人公の理念に基づき、暮らしのお手伝いをさせていただける関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、何時でもご自由に訪問していただけるようしている。支援の方向性について、ご本人、ご家族にも相談しながら検討していくようしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へドライブへ行ったり、地域活動へ参加できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座る席を決めている。また、入居者同士の関係が円滑に保たれるようスタッフが調整役となり入居者同士が上手に関わり合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供を行ったりし、経過をフォローできるよう努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の希望や意向を汲みとるようにしている。また難しい場合には、ご家族と相談してご本人にとって最善の方法や関わりができるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に、ご本人、ご家族、ケアマネージャーなどからお聞きし、フェイスシートにまとめ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、経過記録を活用し、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態に変化があった時など必要時にはカンファレンスを開き、課題とケアのあり方についてを話し合っている。ご家族にも面会時等に相談したり、希望をお聞きして介護計画に反映するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時間軸で経過が記録できる用紙に変更し職員間での情報共有がしやすくなり、実践や介護計画の意直しにも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態、ご家族の意向を尊重しながら柔軟な対応に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方は、近隣の店舗等に行き物に行かれたり、市政だよりを見られ地域の行事に参加している。情報収集に努め豊かな暮らしを楽しむことができるよ努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医による定期的な往診を受けています。緊急時にも適切な医療が受けられるよう、日頃から連携をとり関係が築けるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきで身体に変化がある時など相談し、適切な往診や、受診が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ必要な情報提供を行っている。面会に行かせていただき状況把握に努め又、経過を追っての情報交換や相談を適時行いながら関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の方には、入居前に重要事項説明書にて説明を行っている。出来るだけホームでの生活が継続できるよう主治医と相談しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応について適時職員会議の議題に取り入れ対応の確認を行っている。緊急時に適切な対応ができるようマニュアルを作成しユニットに配置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。入居者の方にも参加していただき実践的な避難訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念に基づき「人としての尊厳と人権を守る」対応ができるようこころざしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりに応じて、また、状況やご本人の状態に応じた働きかけをし、思いの表出、自己決定がしやすい環境を整えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れは決まっているが、お一人おひとりのペースを大切に、どのように過ごしたいかをその都度お聞きしながら支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、セッティングし整容しやすい環境を整えたりしながらその人らしさを大切に支援している 定期的に理美容の業者の方に訪問してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話や食事摂取状況などから嗜好を把握している。調理、盛り付けを共に行い食事がより楽しみなものになるよう心掛けながら支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を個々に把握できるよう記録に残している。状態に応じた食形態へ柔軟に対応し、美味しく食べていただけるようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守り、セッティング、介助等個々に応じた口腔ケアを実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の方の排泄リズムを把握しながら本人の状況・状態に応じた排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬だけでなく、飲食物を個々に応じて検討し予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴担当者と相談しご希望の時間に入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息などご自由に自室へ戻り、休んでいただけるよう環境を常時整えています。夜間パジャマへの更衣支援。定期、必要時シーツ交換をし気持ちよくお休みいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報をファイルし、薬箱の横に保存している。変更があった時などは連絡ノートにてスタッフに知らせ、情報を更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの得意なこと、好きなこと出来ること、やりたいこと等を把握し、調理、洗濯、畑仕事などそれぞれに役割と楽しみを持ちながら生活していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩、買い物はご希望に沿って日常的に行えている。また意思表示しにくい方へも体調や表情を見ながら外出にお誘いしています。特別な場所への外出希望はご家族にお願いするなどなるべく思いが叶うよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方の金銭は金銭管理の同意を得てホームでお預かりしているが、外出の際の買い物ではご本人にお金をお渡しして安心して買い物ができるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい希望のある方には、子機をお渡しして、ゆっくりお話しいただいている。ダイヤル出来ない方にはスタッフが援助しています。手紙の投函など必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が快適に過ごせるよう温度、室温には特に注意している。又、入居者の方の歩行の妨げになる物や危険な物は共有の空間には置かないようしています。花や掲示物を飾り、ホールにいても季節を感じることで空間を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナーで仲の良い入居者同士がくつろげるスペースを設けている。玄関にも椅子を設けており、天気の良い日には外気浴を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が安心できる環境が作れるよう、自宅で使っていた椅子や寝具等、思い出の品を入居時に持って来ていただいている。又、好みの絵やカレンダーなど自由に掲示していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を掲げ、トイレはわかりやすいよう入口に「トイレ」と表示している。共有部分には手すりが設置され歩行の不安定な方にも安全に移動できるようになっている。安全で自尊心を保てる環境作りに努めている。		